

高齢者アセスメント論

単位数：2 単位（時間数：30 時間）

開講年次及び学期：1 年次前期

○原 祥子：地域・老年看護学講座 教授

1. 科目の教育方針

高齢者の健康問題に適切に対処していくためには、健康生活に関する評価方法とその技術を活用し、高齢者の身体的・精神的・社会的側面にわたる健康問題と生活への影響について適切な判断と評価を行うことが求められる。高齢者やその家族の質の高い生活を支える看護実践に向けて、高齢者の健康生活上のニーズの査定に必要な理論と方法の修得を目指す。

2. 教育目標

- 1) 高齢者健康生活評価の諸側面と視点、評価方法の実際を学ぶ。
- 2) 高齢者の健康生活を維持・促進するための看護援助について検討する。

3. 教育の方法、進め方、評価等

【方法と進め方】

講義、学生によるプレゼンテーション、討論によって進める。

【評価】

プレゼンテーション内容、討論での取り組みと貢献度等により総合的に評価する。

4. 使用テキスト、参考文献等

テキストは指定しない。参考文献等を適宜提示する。

【参考文献】

- 1) 鳥羽研二編著：高齢者の生活機能の総合的評価，新興医学出版社，2010.
- 2) 鳥羽研二監修：高齢者総合的機能評価ガイドライン，厚生科学研究所，2003.
- 3) 上田敏：ICF（国際生活機能分類）の理解と活用，きょうされん，2005.
- 4) 大川弥生：介護保険サービスとリハビリテーション
ーICF に立った自立支援の理念と技法ー，中央法規，2004.

5. 教育内容

回	内 容	講師
1	高齢者の健康生活評価に関する理論と方法 ・高齢者総合評価（CGA）の背景と意義、構成とプロセス	原
2	高齢者の健康生活に関する評価（1） ・身体機能（ADL・IADLなど）	原
3	高齢者の健康生活に関する評価（2） ・精神機能	原
4	高齢者の健康生活に関する評価（3） ・生理機能	原
5	高齢者の健康生活に関する評価（4） ・感覚機能	原
6	高齢者の健康生活に関する評価（5） ・認知機能	原
7	高齢者の健康生活に関する評価（6） ・主観的健康感、幸福感	原
8	高齢者の健康生活に関する評価（7） ・生活満足度、QOL	原
9	高齢者の健康生活に関する評価（8） ・環境の快適性と安全性、住環境	原
10	高齢者の健康生活に関する評価（9） ・社会関係、ソーシャルネットワーク	原
11	高齢者の健康生活に関する評価（10） ・家族機能（介護負担など）	原
12	国際生活機能分類（ICF）の視点に基づくアセスメントと看護 ・ICFモデルの基本的特徴、実践的意義、今後の課題	原
13	・低運動による弊害（廃用症候群）の予防・克服の具体的な進め方 ・目標指向的アプローチ	原
14	高齢者の健康生活アセスメントにおける思考プロセスの明確化 （事例検討）	原
15		原